

## 高志中学校の生徒の皆さんへのお勧め図書

推薦者	書名	著者名	お勧めのポイント
山川満寛	思考の整理学	外山滋比古	人間にとって最も重要な「考える」ことについて紹介した超ロング&ベストセラー。整理「法」ではなく、整理「学」としている点がミソ。私たちの生活のあらゆる場面で関わりのある「思考」について、改めて考えるきっかけとなる一冊。保護者の皆さんにもお勧め。
山川満寛	他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス	若泉敬	1972年に沖縄が米国から日本へ返還されたが、その交渉を密使として水面下で担っていたのが若泉敬。旧今立町出身の国際政治学者だった。ミッション実現までの若泉の志と、返還後、自らが果たした役割は正しかったのか、苦悩し自責する姿が綴られている。氏の志と苦悩が書名から痛烈に伝わってくる。
朝倉剛司	国家の品格	藤原正彦	藤原さんは実は数学者で、彼の講演をもとに著された本です。発刊は15年前。当時「～の品格」という言葉がはやっていましたが、その先駆けとなりました。中学生のみなさんにはどンドン世界に目を向けてほしいですが、日本の良さをしっかり理解した上で、羽ばたいてほしいです。
丹尾 靖	クッキングパパ (漫画)	うえやま とち	料理の作り方も毎回あるので、家のご飯を作ってみて下さい。荒岩家の成長も見ることができる。
南 祐美	置かれた場所で咲きなさい	渡辺和子	今の自分の居場所が第一志望ではないかもしれない。けれど、今自分がいる場所であることには変わらない。そこでどうやって自分の花を咲かすか。とても読みやすい一冊です。
松田純典	科学的とはどういうことか	板倉 聖宣	科学的であることの重要性和、そうあることの難しさを多様な事例を挙げて示してくれます。小学生以上を対象に書かれた読みやすい本ですが、内容は大変深いです。
小川駿也	るろうに剣心 明治剣客浪漫譚 (漫画)	和月 伸宏	幕末から明治の激動の時代を生きた剣客の物語です。幕府側、新政府側、立場は違っても、日本の未来を切り拓くために生きた人々の生き様が見れます。
野坂亮介	今年の東大入試国語の第一問 (出典：神の亡霊)	小坂井敏晶	今話題の「格差の自己責任論」について。中学生でも10分程度で無理なく読める内容です。東大が、東大受験生にこの文章の読解を課した意味も考えてみてください。予備校のHPからダウンロードできます。やる気があつたら問題にも挑戦！
森本麻友	システム英単語Premium (語源編)	霜 康司、 刀祢 雅彦	日本語の漢字に、へん、つくりがあるように、英語にも英単語をつくる接頭辞・語幹などがあります。似た形の英単語が多くて覚えにくいと思っている人は特に、その似た部分に注目することで新しい発見があるかもしれません。
野尻敏弘	喜嶋先生の静かな世界	森博嗣	「学問とは何なのか。」「勉強することとは何なのか。」という疑問に答えてくれる本の一つです。簡潔な文章で書かれており読みやすい本です。そして、勉強しようという気持ちにさせてくれる本です。
北川郁雄	項羽と劉邦	司馬遼太郎	前漢帝国を興した劉邦と、彼のライバルである項羽の争い(楚漢戦争)を描く。人間くさく、周囲の助けなしには立ち行かない劉邦と、超絶的な武力を持ちながらついには劉邦に敗れる項羽。彼らを中心に展開される物語中には、後世に語り継がれる名場面が満載です(高校の漢文の授業でも扱われます)。冒頭では秦の始皇帝も登場し、現在も連載中の人気漫画『キングダム』の後日譚として読むのも一興です(始皇帝(=秦王政)の描かれ方はかなり違いますが)。

推薦者	書名	著者名	お勧めのポイント
松田美亜子	ダーリンは外国人	小栗左多里	漫画で描かれたエッセイ。外国人の夫を持つ筆者の面白い日常。単純に面白いだけでなく、国際理解にもつながると思います。
松田美亜子	FACTFULNESS	ハンス・ロスリング, オーラ・ロスリング, ア ンナ・ロスリング・ロン ランド	質問 世界の1歳児で、なんらかの予防接種を受けている子供はどのくらいいる? ・A 20% ・B 50% ・C 80% 調査によると、正解率は三分の一以下。つまりランダムに選ぶよりも低い正答率です。賢い人ほど、世界についてとんでもない勘違いをしている、という内容です。
橋本将宏	考えるカラス	川角 博	少し意外な実験結果が提示され、その解説が始まろうとするまさにそのとき、『ここからは自分で考えよう。これからはみんなが考えるカラス』と唐突に終了してしまうNHK番組が書籍化。自由研究で取り組みたいテーマやアイデアがきっと見つかることでしょう。
吉田 恵	目の見えない人は世界をどう見ているのか	伊藤亜紗	視覚障害者がどのように世界を認識しているのかを理解することをテーマにしたもの。視覚障害者の空間認識、感覚の使い方、体の使い方、コミュニケーションの方法などを分析し、私たちが知らない、目の見えない人の「見方」を考える事で、私たち自身の「見る」ことを考え直します。自分の知らない世界はこんな所にも広がっているんだ、と驚かされる一冊です。
吉田 恵	砂の女	安部公房	閉じ込められた砂丘の穴の底にある一軒家から脱出しようとする男と、一軒家に男を引き留めようとする女。ありえない設定の中に人間の真理が見える、じわじわと何かを感じさせる暗示的な作品です。日本のシュールリアリズムの第一人者といわれる著者が描こうとしたものは何なのか、ぜひ考えてみてください。
清川ひろみ	銀河鉄道の夜	宮沢賢治	4月の「おいしい図書館給食」は、この物語の主人公ジョパンニが食べた「雁の足」です。さて、どんな食材で「雁の足」を作るのでしょうか。想像しながら読んでみてください。
齋藤一恵	「十歳のきみへ」	日野原 重明	医者、医学博士である著者は日本で予防医学の重要性を初めて唱え、人間ドックの設立や終末医療の普及など医学の発展に努めた方です。子どもにとって難しいテーマも率直な言葉で語っていて、皆さんがどんな感想をもつのか、きいてみたいです。
ジェームズ	①さよならを待つふたりのために ② Sideways Stories from Wayside School	①ジョン・グリーン ② Louis Sachar	① ヘイゼルは16歳。甲状腺がんが肺に転移して、酸素ボンベが手放せないまま、もう三年も闘病をつづけている。骨肉腫で片足を失った少年オーガスタスと出会い、互いにひかれあうが……。生きて人を愛することのおかしみや喜びをまっすぐに描き、死をみつめながら日々を送る若者の生々しい感情をとらえた、傑作青春小説。 ② 一話ずつ3～4ページずつの短編が収録されています。一巻は先生から始まって、各生徒達のお話が30章あります。個性的な子供たちのお話が多く、オチでくすつとすることもしばしば。著者はHOLESの作者なのですが、HOLESを書いた著者とは思えないほどはっちゃけた物語になっています。
ナターシャ	Lord of the Flies (蠅の王)	William Goulding ウィリアム・ゴール ディング	A classic novel written in 1954 about a group of school boys whose plane crashes on an empty island. Every student in North America must read this book during their school days.